

平成23年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度の5つの重点課題のうち、学習活動では昨年度より継続して「自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、定着」を目指し、互見授業や授業アンケートの実施および基礎計算力テストに目標値を設定するなど、様々な方策を試みた。学習活動については、数値的には劇的な改善は見られないが、着実に成果を上げている。特に資格取得においては、第1種電気工事士の合格率が74%（受験者27名中20名合格）、第2種の合格率が82%（受験者49名中40名合格）と全国平均の合格率（第1種43%、第2種49%）を大きく上回った。またリスニング検定の3級以上の合格者数も、190名を超えるなど、資格取得の面では着実な学習の成果が得られた。

生徒指導では、怠惰による年間遅刻率を生徒一人につき年間0.27回以下を目標に取り組んだ。遅刻を繰り返す生徒に対する指導を粘り強く継続した結果、目標を達成したが、学校評議員会において、今後も根気強く指導を続けて欲しいと要望を受けた。また、登下校の交通事故防止に対する取組として、学校周辺における過去の事故現場を表示したハザードマップを作成配布した。新一年生には入学当初に配布する予定である。今後も生活習慣の安定に努めてより一層の減少を図りたい。

進路指導に関しては、インターンシップの満足度は高く、専門性を生かせる進路の選択も目標を達成した。生徒数の増加に対応してインターンシップ受入れ先も確保することができた。しかし、進学に関しては高校で学んだ専門以外に進路選択した生徒も多く、専門性を高めるための進路決定が次年度の大きな課題である。

特別活動を活性化させる取り組みとしては、部活動の継続率と学校行事の充実感に対するアンケートを実施し、マナー化や形骸化しつつある部活動や学校行事の内容の見直し改善を行った。結果は、部活動継続率は全体で97%と高い値を得た。学校行事の満足感は、運動会・球技大会は85%を超える高い値が得られたが、本校の最大行事である「尚美展」では、天候に災いされ満足したと答えた生徒の割合が約75%であった。次年度以降も部活動の活性化と学校行事への積極的な取組みへの意識の高揚を図り、学習と部活動、奉仕・体験活動などの特別活動を両立させるよう努めたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、平成22年度から、二上工業高校と高岡工芸高校の再編統合により、新しい高岡工芸高校としてスタートし、次年度は全校生徒が新工芸高校生となる。新高校では工業系の5学科と工芸科、デザイン・絵画科の芸術系2学科の合わせて7学科が連携し、地域のものづくりの拠点校として優れた人材を輩出すべく、学習指導、生徒指導、進路指導のより実践的な取り組みが必要となる。このため、学習指導については、わかりやすい授業の実践、興味関心を高める工夫など、さらなる授業の改善や質の向上に努めたい。また、生徒指導については、学校と家庭との情報の共有を図り、朝寝坊や怠惰による遅刻の防止など高校生としての節度ある行動・態度がとれるよう人格形成に努めたい。進路指導については、インターンシップの実施により企業・地域との連携をさらに深め、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努めたい。

今後とも、職員間の連携を密接にとり、達成度のみならず満足することなく、方針、計画などを検証し、積極的に課題に取り組みたい。